
西大阪ブロック流域の概要

流域の概要（流域及び河川の概要）

- 流域は、我が国の主要都市の中でも有数の大都市である大阪市の中核部に位置する。
- 対象河川は全て感潮河川で勾配もほとんどない（縦断勾配1/12,500～水平）。
- 流域14区の人口は約134万人（平成27年現在）。

表 対象河川一覧

河川名	指定区間延長(km)	流域面積(km ²)
旧淀川 (大川・堂島川・安治川)	13.83	288.0 (流域面積に寝屋川 流域含む)
土佐堀川	2.45	
木津川	8.80	
尻無川	4.10	
東横堀川	2.175	
道頓堀川	2.745	
住吉川	3.05	10.8
正蓮寺川	4.60	
六軒家川	1.45	

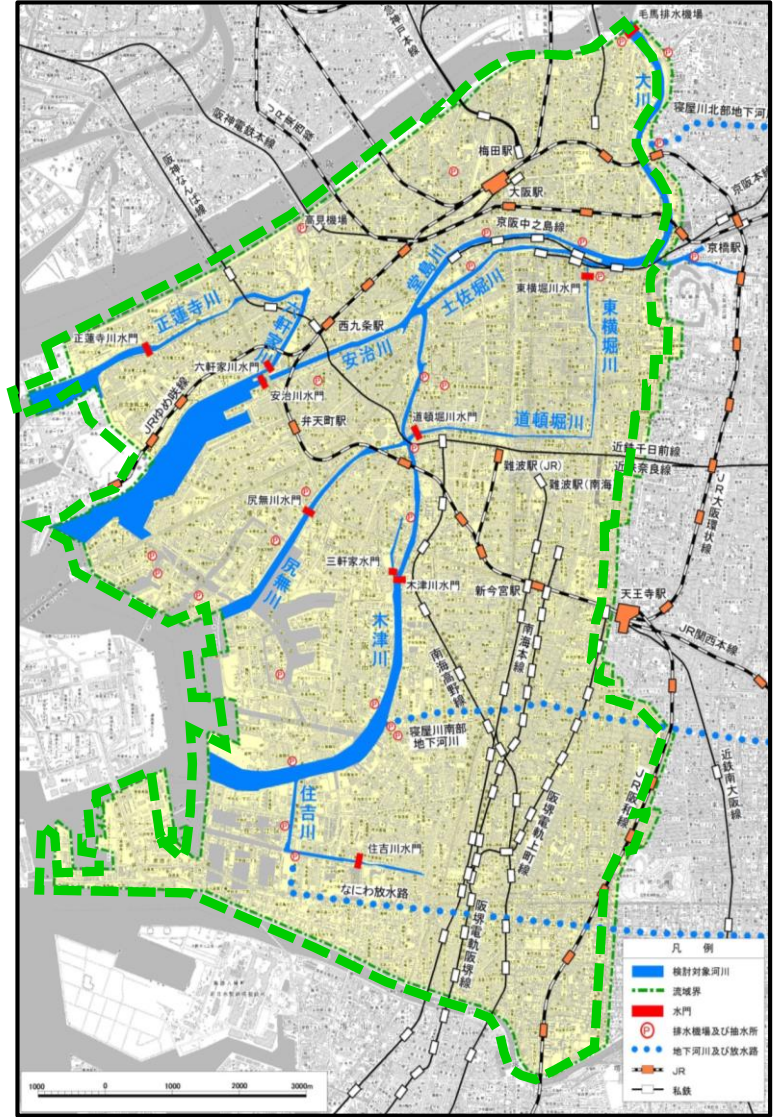
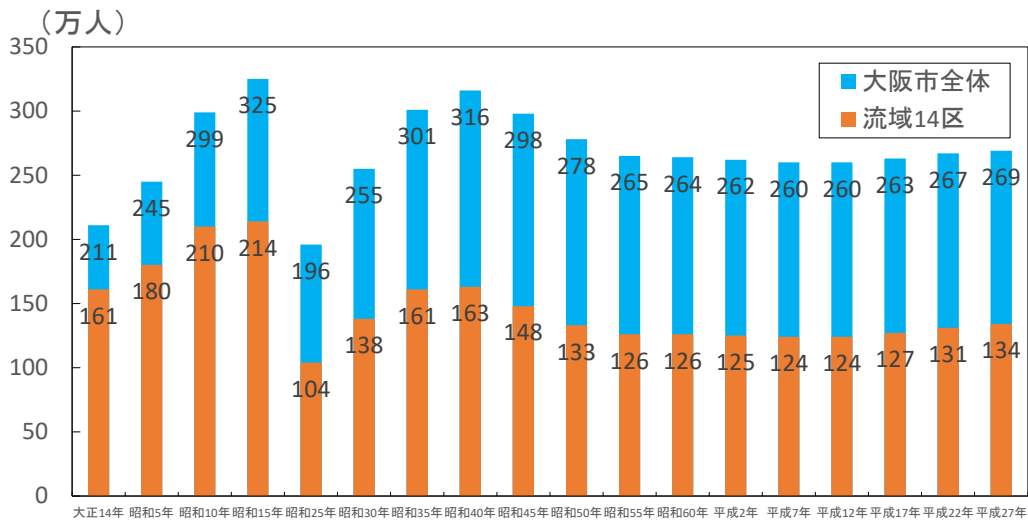
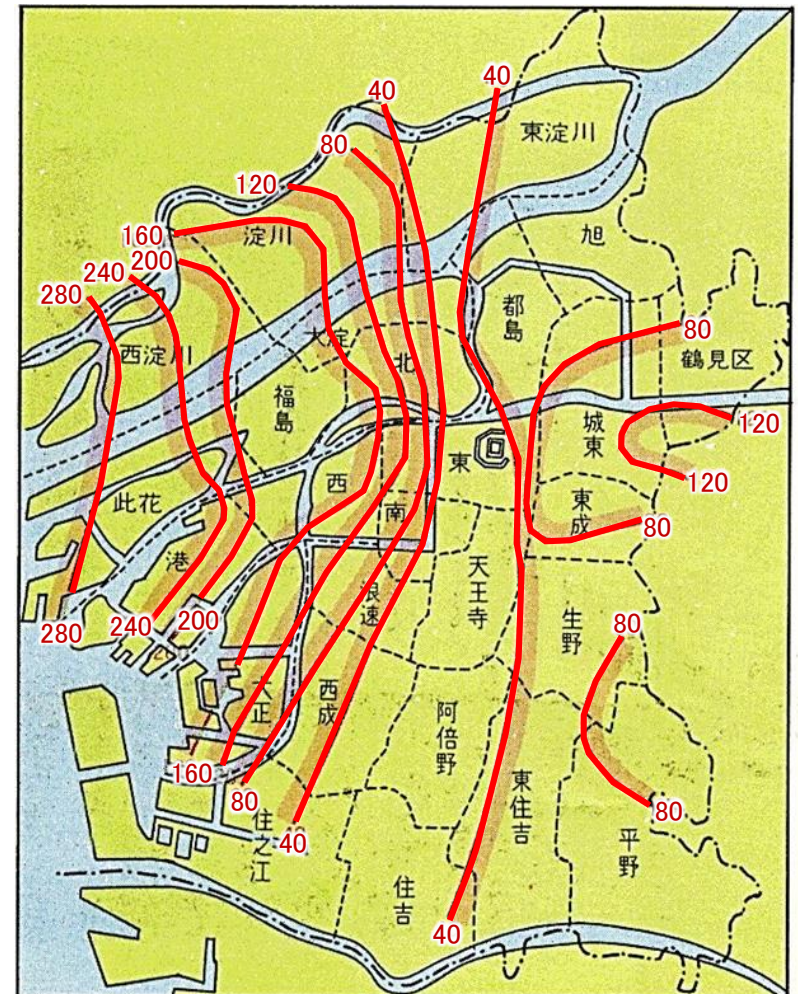


図 流域図

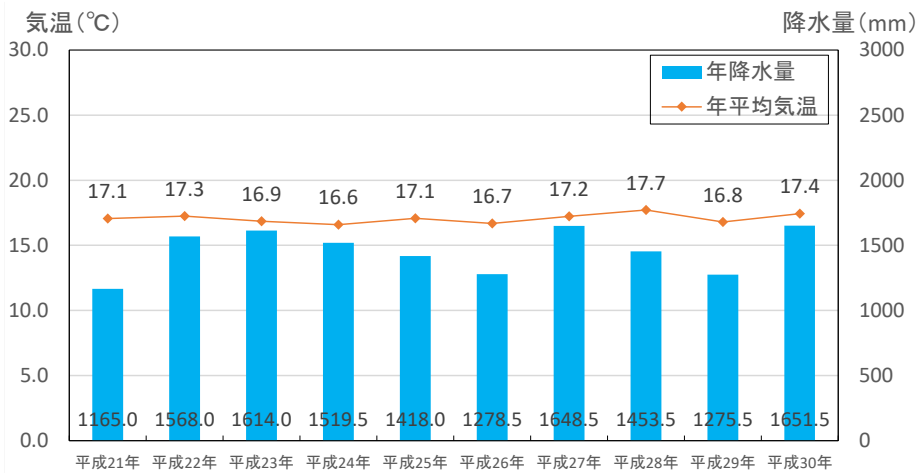
流域の概要（流域の特性1）

- 流域は、大阪平野の河口部に位置し、低地帯で海拔ゼロメートル以下の地帯も存在する。
- 地質は、淀川水系、大和川水系の河川によって堆積された軟弱な沖積層で覆われており、昭和10年～昭和36年頃には、多量の地下水汲み上げにより激しい地盤沈下に見舞われた。
- 現在では、地下水汲み上げ規制等により沈下はおさまり、沈下の進行はほとんど見られない。



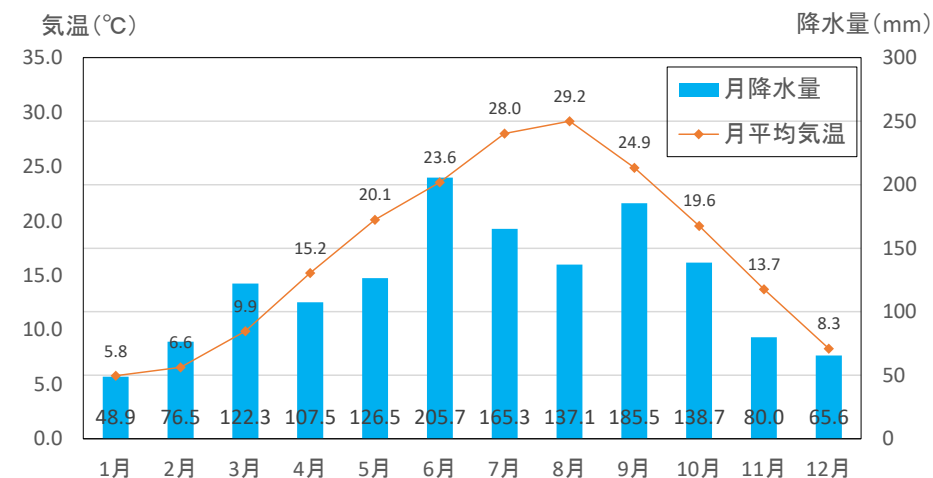
流域の概要（流域の特性2）

- 気候は温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は1,459mm。
- 流域は、大部分が市街地であるため、自然植生の群落はあまり見られず、公園などにおいて、54科231種の植物が確認されている。
- 動物については、魚類は13科23種、鳥類は20科37種、両生類は2科2種、は虫類は1科1種、昆虫類が60科156種確認されている。



資料: 気象統計情報—気象庁(大阪官区 大阪観測所)
URL: <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

図 年平均気温と年降水量の推移（平成21年～平成30年）



資料: 気象統計情報—気象庁(大阪官区 大阪観測所)
URL: <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

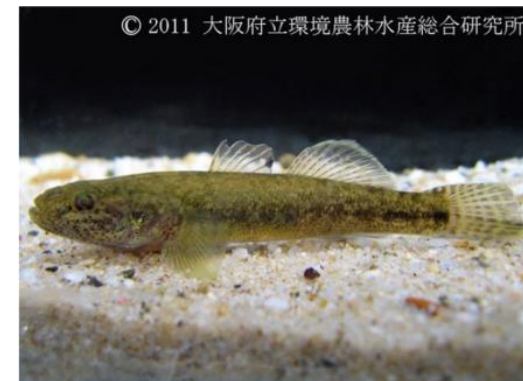
図 月別の平均気温と降水量（平成21年～平成30年の平均）



コアジサシ(絶滅危惧Ⅱ類)



カワヒガイ(準絶滅危惧)



ウキゴリ

流域の概要（歴史・文化・観光）

- 流域の歴史はまさに大阪の歴史でもあり、「難波宮」(7世紀)では、政治文化の中心地であった。
- 近世において、天満川、東横堀川などの「舟運」を活用し、商都「天下の台所」として発展した。
- 天神祭や歌舞伎の船乗り込みなど水に係わる伝統行事が今もなお継承されている。
- 近年では、“水の都”の再生に向け、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」(安治川)、「大阪ドーム」(木津川・尻無川)、「湊町リバープレイス」(道頓堀川)などが河川の沿川に整備されている。
- また、水都大阪の再生プロジェクトとして、船着き場や水辺のテラス、遊歩道が整備されている。



天神祭の様子



湊町リバープレイス(道頓堀川)



八軒家浜船着場



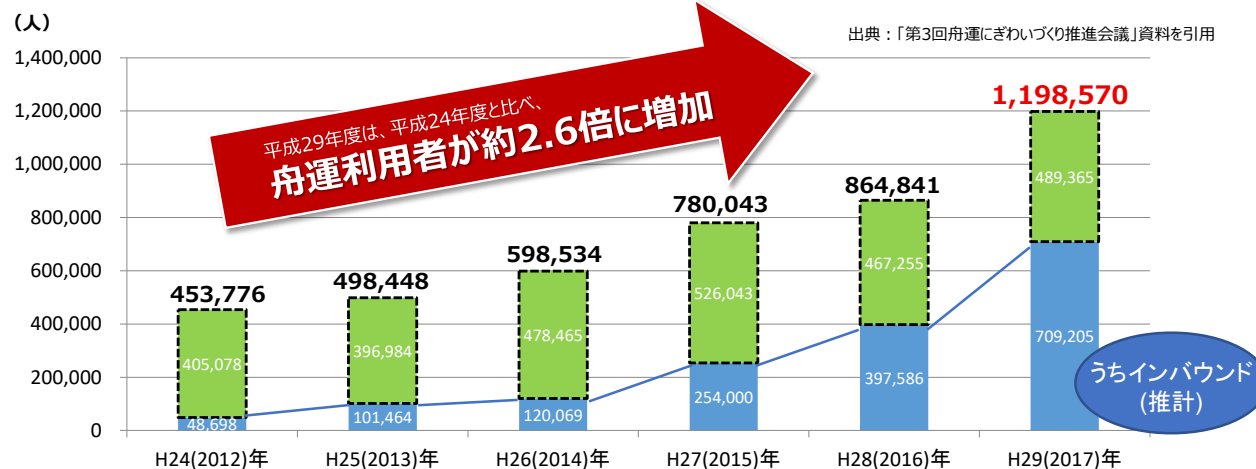
賑わい空間整備箇所(尻無川)

流域の概要（河川利用及び河川環境の現状）

- 旧淀川筋及び土佐堀川、東横堀川の沿川は、公園・遊歩道を整備しており、人々の憩いの水辺となっている。
- 橋梁（天満橋）や護岸、船着場のライトアップによる、夜間の魅力的な景観形成を図っている。
- 古くから舟運が盛んで、現在でも貨物船やクルーズが航行している。
- 河川敷地の占用に関する規制緩和の特例措置区域指定を受け、土佐堀川の常設川床「北浜テラス」、道頓堀川のオープンカフェ等として利用できる「とんぼりリバーウォーク」などの整備を実施している。

平成29年度の舟運利用者数は、100万人の大台を大幅に上回り、**約120万人**となっている。

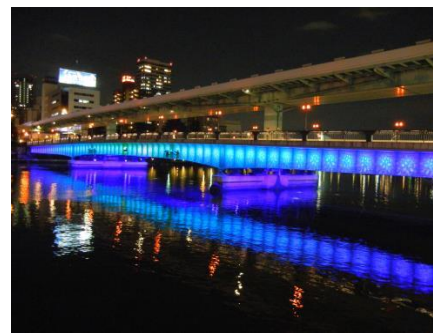
また、**インバウンドが占める割合は59.2%**と年々伸びており、来阪外客数の増加が舟運利用者数の増加をけん引する形が顕著となっている。



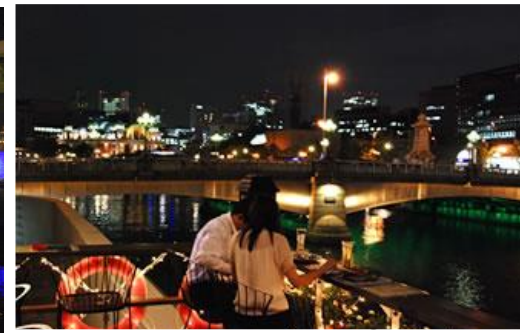
水上バスによる運航



道頓堀川の賑わい



天満橋(ライトアップ)



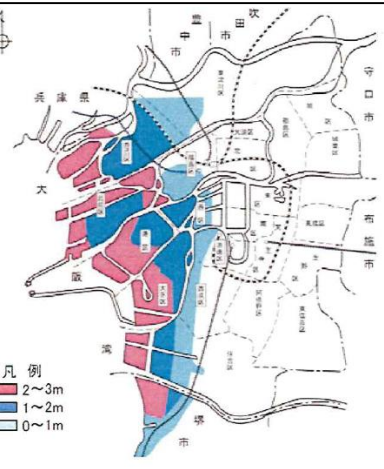
北浜テラス

西大阪地域における高潮対策（1）

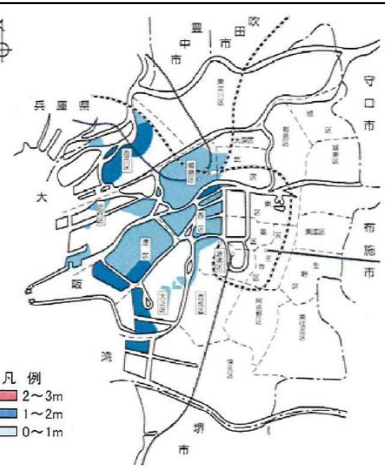
- 西大阪地域は、その地形的条件から高潮が起こりやすく、室戸台風(昭和9年)、ジェーン台風(昭和25年)、第二室戸台風(昭和36年)の高潮によって大きな被害を受けた。
- 昭和40年からは、伊勢湾台風級の台風が最悪となる室戸台風のコースを通過して満潮時に来襲した場合を計画目標とした「大阪高潮対策恒久計画」に着手し、防潮施設の整備を進めた。



室戸台風（昭和9年）



ジェーン台風（昭和25年）



第二室戸台風（昭和36年）

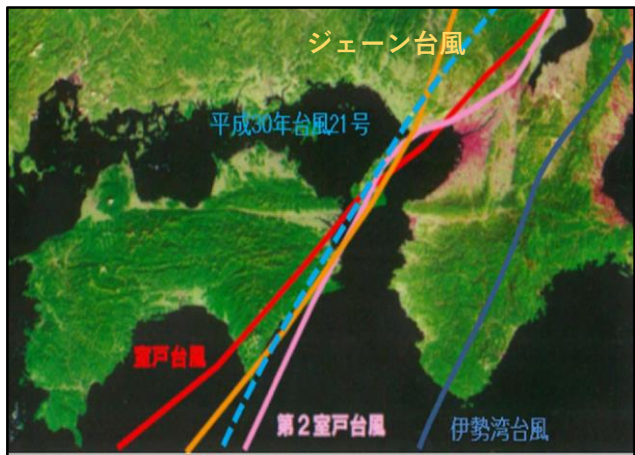
ジェーン台風(昭和25年)

項目		被害数
建物被害	全壊・流出・半壊	46405戸
	床上浸水	記載なし
	床下浸水	記載なし
人的被害	死者・行方不明者	221人
	重軽症者	18573人

第二室戸台風(昭和36年)

項目		被害数
建物被害	全壊・流出・半壊	1726戸
	床上浸水	約51500戸
	床下浸水	約54000戸
人的被害	死者・行方不明者	6人
	重軽症者	682人

資料: 西淀川区史 平成8年3月15日発行



大阪湾に高潮を起こした台風の経路



防潮堤



毛馬排水機場

西大阪地域における高潮対策（2）

- 旧淀川筋の防潮方式については、大型の防潮水門による方式を採用し、高潮時には防潮水門を閉鎖して高潮の遡上防御を図っています。
- 安治川、尻無川、木津川には国内では珍しいアーチ型の大水門が昭和45年に建設されています。



図 防潮水門方式

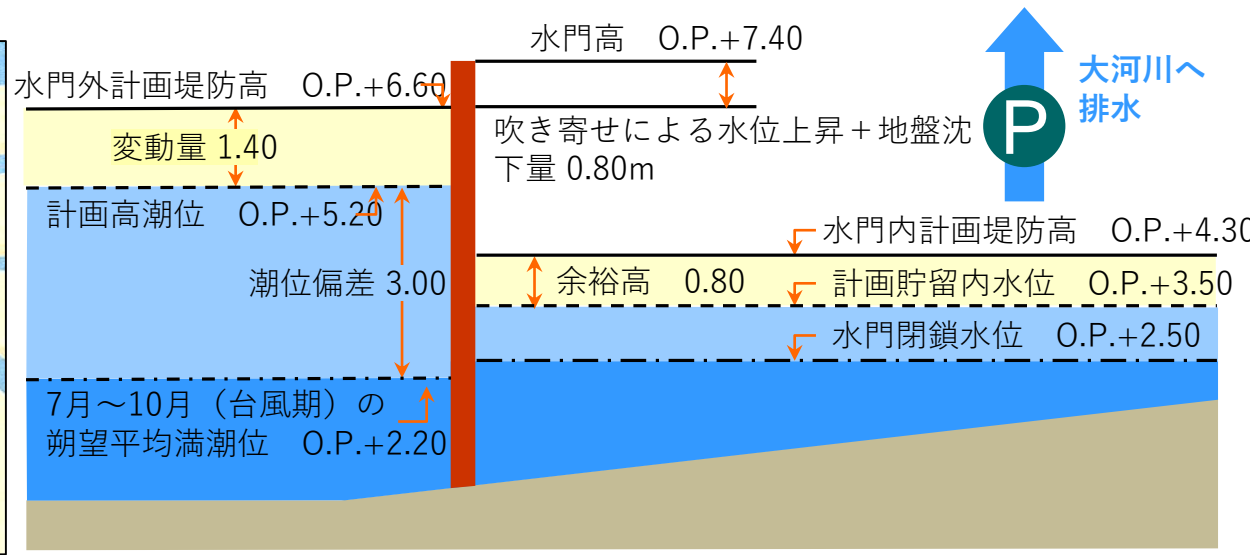


図 防潮水門方式概念図



図 アーチ型の三大水門の様子

平成30年台風第21号時の三大水門

- 平成30年台風21号において、高潮警報が発令されたため、三大水門を閉鎖した。
- 大阪府の潮位計（木津川水門外側に設置）にて最大潮位O.P.+5.13mを観測し、過去最高潮位（第2室戸台風）よりも約1m高い潮位となったが、管内の高潮による浸水被害は発生しなかった。

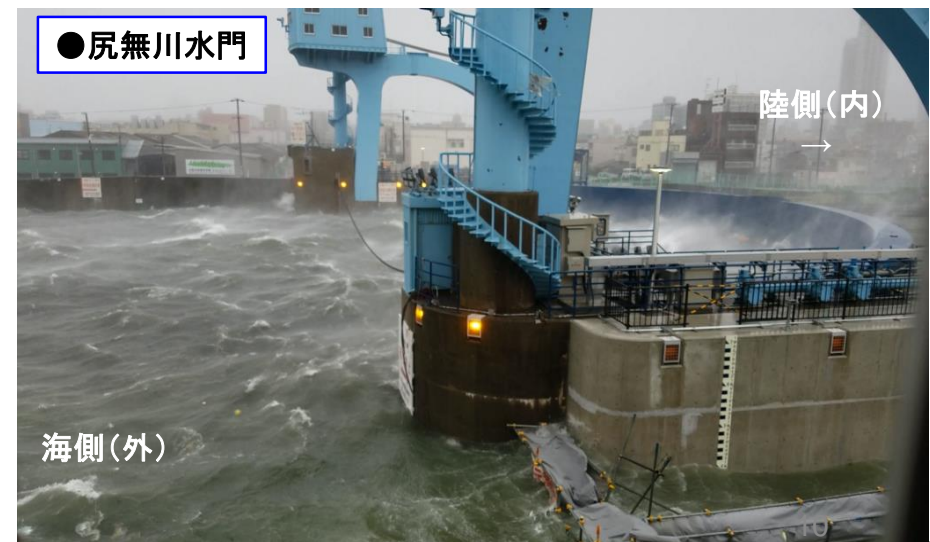
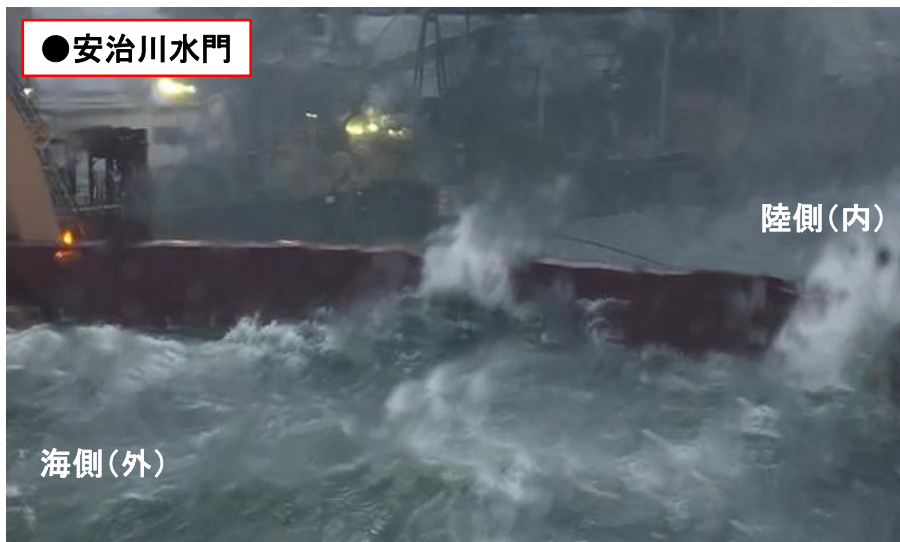
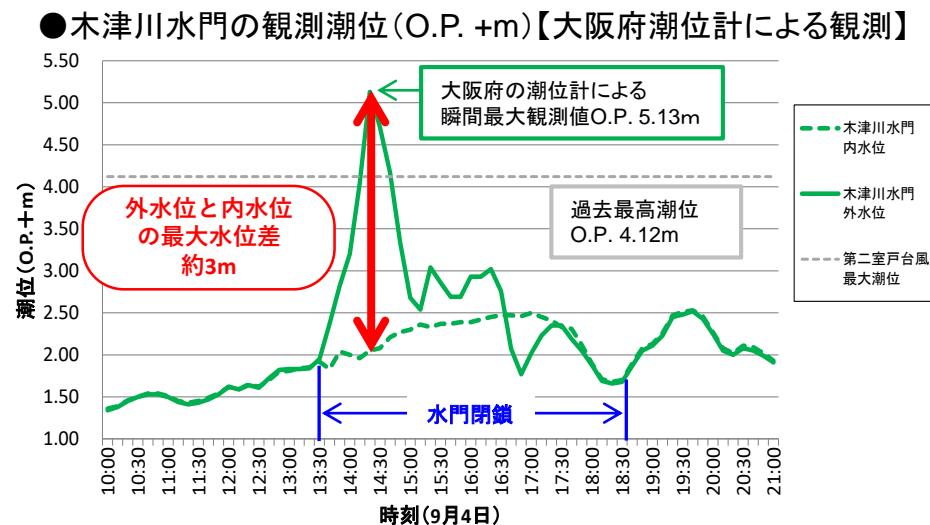


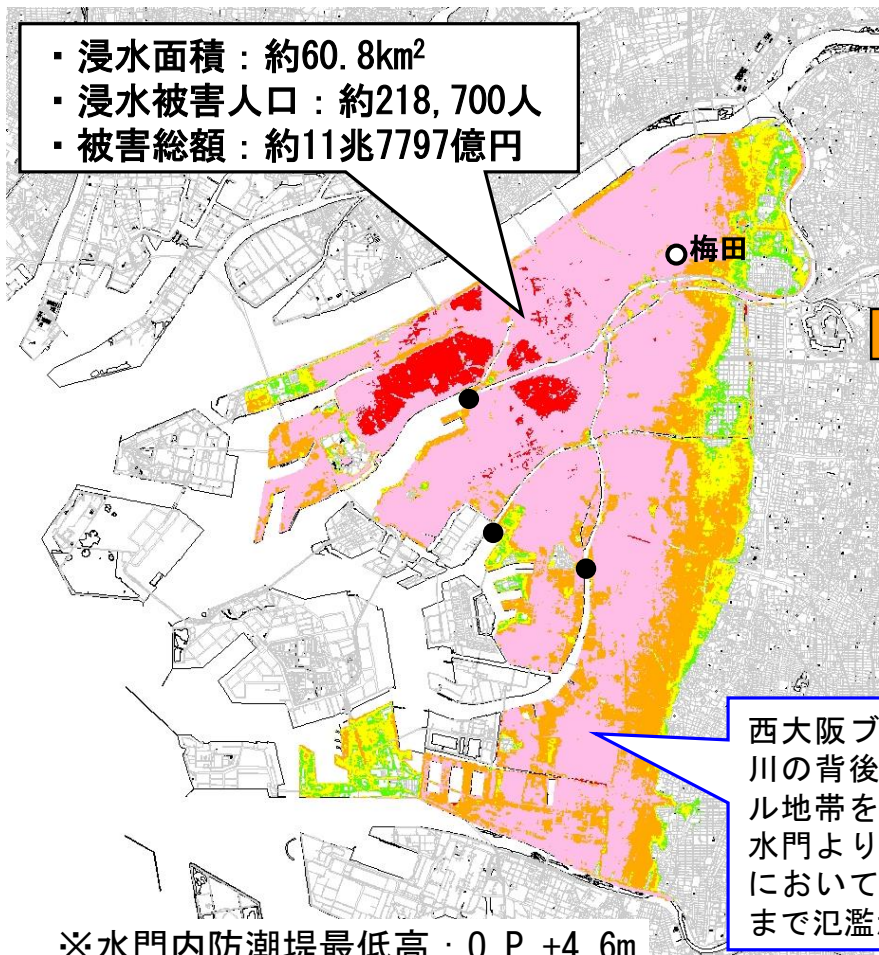
図 平成30年台風21号時の三大水門の様子

高潮に対する三大水門改築事業の効果

- 水門内の防潮堤の高さは、計画高潮位 (O.P.+5.2m) よりも低い高さで整備されているため、計画高潮位の高潮では、大阪市内において浸水が発生する。

水門を整備しない場合

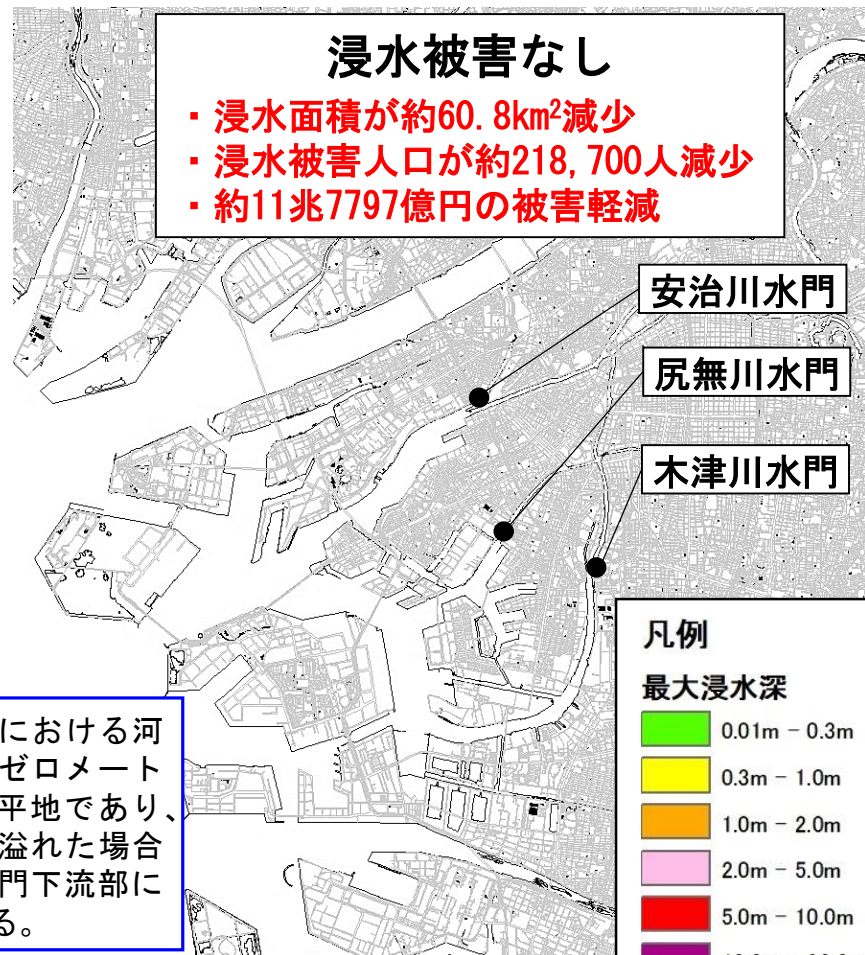
- 浸水面積：約60.8km²
- 浸水被害人口：約218,700人
- 被害総額：約11兆7797億円



三大水門の整備 完了

浸水被害なし

- 浸水面積が約60.8km²減少
- 浸水被害人口が約218,700人減少
- 約11兆7797億円の被害軽減



潮位によるレベル湛水による浸水状況

(高潮外力：計画高潮位O.P.+5.2m)